

ATTAKA vol.7

田原市民活動支援センターだより「あったか」

A=渥美のア、TA=田原のタ、AKA=赤羽根のアカをくっつけたロゴで、
あったかい心で、つながるあったかいまちづくり、そんな活動はあったかい、とあったか尽くしのだよりです。

2021. 6. 15 発行 発行・編集:たはら市民活動応援隊

教えて！あなたの団体

今回は、江戸時代から約400年続く「田原凧」の後継者を育てるため、「大空の文化を楽しく次世代に！」をスローガンに、平成30年4月に設立された『凧の学校・はやぶさ』さんです。昨年度は、コロナ禍のため殆ど活動できなかったということで、「凧の学校・はやぶさ」の校長を務める鈴木裕さんに、主に設立のきっかけから2年間の活動の様子をお尋ねしました。



どういった経緯で設立されたのですか？

きっかけは、平成25年6月中部小学校の藤原先生からの「伝統の田原けんか凧の作り方や技を教えてください」という凧保存会への依頼でした。それで、中部小学校と衣笠小学校のクラブ活動の一つとして「凧クラブ」ができ、年10回～14回くらいの凧の授業を凧保存会が受け持ちました。そのうち、子供たちからもっと練習したいという要望があり、凧保存会主催で「凧道場」を開設し、土日曜日にも凧の練習を行うようになりました。

やがてその子ども達が中学生に上がるとき、中学校では凧クラブの組織はないので、さらなる向上と、後継者育成を目指し、田原凧保存会の後継者育成機関として、平成30年4月『凧の学校・はやぶさ』を設立し開校、市内の小学生3～6年生10人と中学生11人、20～40代の社会人10人の計31人でスタートしました。

どんな活動を行ってきましたか？

- ① 【凧授業（凧練習）】 田原凧の操作から凧づくりの基本まで行います。特に田原凧の動きは、全国的にも珍しく、田原独自の面白い操作が魅力です。練習時間は、概ね毎土日曜日10時～12時。春・夏休みには、5日～10日間くらい練習。夏休みには、合宿も行いました。
- ② 【対外大会に参加】 豊橋全国凧揚げ大会、新春親子モリコロ凧揚げ大会（名古屋）
- ③ 【田原凧まつりに参加】 初凧揚げ・田原けんか凧合戦

田原けんか凧合戦の成績

（平成30年5月、赤はやぶさ青はやぶさ2チームを登録）

平成30年5月 赤はやぶさ 第3位

令和元年5月 赤はやぶさ 第2位

令和2・3年 凧合戦、新型コロナのため中止

※現在、田原初凧と田原けんか凧は田原市無形民俗文化財に指定されており、その保存継承に力を入れています。

現在の活動メンバーは？

中部小学校・衣笠小学校の児童、中学高校生	20名
社会人	10名
講師&関係者	12名



令和元年5月赤はやぶさ3位入賞記念写真

今後の抱負を教えてください！

中部小学校の凧授業に始まった子どもたちの田原凧への挑戦は、凧の学校・はやぶさを誕生させ、田原けんか凧合戦における貴重な体験をへて、大きく羽ばたきました。

ふるさとに伝わる伝統の文化は、子どもの時からふれあうことと、地域の人たちと交流しながら学ぶことが、大切だと考えています。凧の学校・はやぶさは、体験を尊び、大空の文化を楽しく次世代に引継ぐため後継者育成活動に力を注ぐ決意です。



揚げ付け



凧揚げ

田原市民活動支援センター名称変更検討中

「田原市民活動支援センター」は、田原文化会館1階フリースペースにある市民活動の活性化、充実のために市民活動団体の情報収集、提供等を行う所です。市役所企画課協働係の委託を受け、私たち「たはら市民活動応援隊」が業務にあたっています。しかしながら、その認知度は低く、利用者数も多くないというのが現状です。そのため、この現状を打開する対策を検討する中で、センター名の変更も一手ではないかという意見が出てきました。「市民活動」という言葉にとらわれず、田原のまちをもっと居心地よく、誰もがもっと元気に暮らせるまちにするために、広くまちづくりについて考え、様々な活動をしていく人たちを応援する所として、もっと皆さんに親んでもらえる名称はないかと検討しています。

皆さんのご意見が不可欠です。変更の是非や変更名称、その他支援センター活性化のためのアイデアなど様々なご意見をお聞かせください。お待ちしております。

編集後記

ついちょっと前まで「まだまだ寒いねえ」と言っていたのに、気づけば「暑いねえ」が挨拶の言葉に。季節は確実に廻っているのに、コロナはなかなか去ってくれない。ワクチン接種が功を奏し、次号では「そんなこともあったね」と言えるようになっていきますように。

ご意見・ご感想は

田原市民活動支援センター まで
開設場所 田原文化会館1階フリースペース
開設日時 毎週火曜日・土曜日/正午~午後